

## 2025 年度第 2 回町田市食育推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2026 年 2 月 12 日（木） 14：00～16：00	
開催場所	町田市保健所中町庁舎 1 階講堂	
議題	1 開 会 2 保健所長挨拶 3 報告 (1) 健康的な食生活の推進に関する連携協定（味の素株式会社） 【資料 1】 (2) まちだ食育すごろく 【資料 2-1～4】 4 議事 (1) 町田市の食育の取組と方向性について ア 東京家政学院大学と保健予防課との食育連携事業 【資料 3】 イ J A 町田市と連携した食体験事業 【資料 4-1～2】 ウ 町田市食育ボランティアへの活動依頼 【資料 5】 5 その他（事務連絡事項等） 6 閉会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	調所 勝弘 （学識経験者） 山崎 進二 （東京都町田市歯科医師会） 千葉 勢子 （町田市法人立保育園協会） 神蔵 宗 （町田市私立幼稚園協会） 岩崎 直美 （町田市公立小学校校長会） 藤井 朱世 （町田市公立中学校校長会） 前田 佳香 （市内小学校栄養教諭） 山下 豊一 （町田市農業協同組合） 山下 幸光 （市内農業者） 松井 大輔 （町田商工会議所） 高尾 花 （町田集団給食研究会） 原 慶子 （町田地域活動栄養士会） 亀田 文生 （町田市観光コンベンション協会） 沼尻 宗子 （町田市立学校に在籍する児童又は生徒の保護者） 竹下 幸子 （町田市立学校に在籍する児童又は生徒の保護者）
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	風張 眞由美 （町田市医師会） 浦嶋 澄香 （市内高等学校教諭） 米澤 加代 （市内大学教員） 山口 晃 （東京都町田食品衛生協会）
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 【資料 1】 健康的な食生活の推進に関する連携協定（味の素株式会社）</li> <li>・ 【資料 2-1】 すごろく概要</li> <li>・ 【資料 2-2】 まちだしょくいくすごろく 幼児版</li> <li>・ 【資料 2-3】 まちだ食育すごろく</li> <li>・ 【資料 2-4】 まち☆ベジーズサイコロ</li> <li>・ 【資料 3】 東京家政学院大学と保健予防課との食育連携事業</li> <li>・ 【資料 4-1】 J A 町田市と連携した食体験事業</li> <li>・ 【資料 4-2】 食体験事業チラシ</li> <li>・ 【資料 5】 町田市食育ボランティアへの活動依頼</li> <li>・ 2025 年度町田市食育推進委員会 委員名簿、席次表</li> <li>・ 町田市食育推進委員会設置要綱</li> <li>・ まちだ健康づくり推進プラン 24-31（閲覧用）</li> </ul>	

## 検 討 経 過

### 1 開 会

### 2 保健所長挨拶

### 3 報 告

#### (1) 健康的な食生活の推進に関する連携協定（味の素株式会社） 【資料1】

**委員長：**

報告事項（1）健康的な食生活の推進に関する連携協定（味の素株式会社）【資料1】について事務局より報告をお願いします。

**事務局：**

味の素株式会社との「健康的な食生活の推進に関する連携協定」の締結（1月26日付）について、【資料1】のとおり報告した。

【資料1】について。

町田市と味の素株式会社は、1月26日に連携協定を締結した。本協定は「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」で掲げる「食で健康を支えるまち」の実現を目指すものである。これまでも同社とはレシピブックの発行などで協力してきたが、改めて協定を結ぶことで取り組みの目的を明確化した。これにより、同社だけでなく関係機関や団体とも連携したより広域な食育の展開が可能になると考えている。企業の持つ高い発信力を活用し、市民の皆様へより効果的な普及啓発に取り組んでいく。今回の協定における主な取り組みは、「健康的な食生活の推進に関すること」「食生活の課題解決に向けた地域社会の活性化」「実施する事業 PR」「市内の企業や関係機関との連携」などである。これらを通じ、レシピブックの発行だけでなく、地域企業や職域事業者と連携したイベントなどを広く展開し、施策の効果を高めていきたいと考えている。

具体的な事業の第1弾として、レシピブック「野菜調理のシン定番」を作成し、配布している。1月31日から市の公共施設やスーパー等で配布を開始した。配布にあたっては、当委員会の委員であるJA町田市、観光コンベンション協会、東京家政学院大学にも協力をいただいている。

今回作成した「野菜調理のシン定番」のタイトルの「シン」には、新しい・最新という意味に加えて、Z世代を中心とした若い世代が日常的に使う流行語としてのニュアンスを盛り込んでいる。野菜摂取量の少なさが課題となっている若い世代に、まずは興味を持って手に取ってもらうということを強く意識した。今後はさらに若い世代へのアプローチを強化するため、地元のスポーツチームとも連携し、レシピブック発行と連動したイベントなどが実施できるよう調整していきたいと考えている。

報告は以上。

**委員長：**

質問はあるか。→なし

私から質問する。

パンフレットを見たが、相模原市もこれと同じような取り組みを一緒にやっているのか。

**事務局：**

相模原市とも連携を図っている。前回の事業は相模原市が主となって制作しており、今回のレシピブック発行においても、同市を含めた広域的な取り組みとして展開した。今後も相模原市との連携を継続的に検討する一方、事業内容によっては味の素株式会社と町田市の2者で実施するなど、柔軟な体制を想定している。今後も多様な連携の形を模索し、事業のさらなる充実に努めていきたい。

**委員長：**

色々な催し物を行うということだが、現時点で決まっているものは上記のみか。

**事務局：**

まだ調整中だが、市民の方により興味を持っていただくために、スーパー三和に協力いただき、イベント等を行うことができないか検討している。その中でスポーツチームのメッセージをいただく等の連携が出来れば、もっと市民の方にも興味を持ってもらえるのではないかと考えている。

**委員長：**

質問はあるか。

**藤井委員：**

生徒や保護者を対象に食生活の見直しを目的とした講演会を開催したい場合、保健所の栄養士に対応してもらえるのか。

**事務局：**

市民向けの食生活セミナーであれば、保健所でも対応可能。小中学校になると、教育委員会に栄養士が配置されているので、まずは教育委員会の栄養士が対応するという形になるかと思う。

## (2) まちだ食育すごろく【資料 2-1~4】

**委員長：**

報告事項 (2) 報告事項 2「まちだ食育すごろく」事務局より報告をお願いします。

**事務局：**

町田食育すごろくについて【資料 2-1~4】のとおり報告した。

### ・資料 2-1 すごろく概要について

本事業では、子どもたちが食について遊びながら楽しく学べるよう、年齢に合わせて 2 種類のすごろくを制作した。制作に際しては、食に関わる庁内各課が集まる「町田市食育推進庁内連絡会」においても検討を行った。また、第 1 回の本委員会の意見を反映するとともに東京家政学院大学の米澤委員にもご協力いただき、最終版を完成させた。

本すごろくは、A4 サイズの「まち☆ベジーズさいころ」と組み合わせて使うことで、より楽しく取り組むことができる。家庭をはじめ、保育園や幼稚園、小学校、子どもセンター、地域のイベントなどでの活用を想定している。

### ・資料 2-2 まちだしょくいくすごろく（幼児版）、資料 2-3 のまちだ食育すごろくについて

資料 2-2 の「まちだしょくいくすごろく（幼児版）」は、食べ物に関する簡単なクイズを取り入れており、小さなお子様でも楽しく学べる内容である。

資料 2-3 の「まちだ食育すごろく」は、すごろくを楽しみながら色別のカードを集めることで、栄養バランスの良い献立の作り方を自然に学ぶことができる。また、「まち☆ベジ」や「農業祭」「さくらまつり」といった町田の食にまつわる行事を随所に取り入れ、「町田らしさ」を感じられる内容に仕上げた。

これらのすごろくは、町田市ホームページの「保健栄養・食育推進」のページから、どなたでもダウンロードしていただくことが可能である。

第 1 回の委員会で、「ホームページからのダウンロードだけではなかなか活用が広がらないのではないか」という意見もいただいた。今後の展開として、特に活用してほしい場所に案内するとともに、「まち☆ベジーズさいころ」の配布時にすごろくの紹介、活用、拡大版の展示、市が実施する事業内での活用等、積極的に進めていく。

委員の皆様にも周知や活用に協力いただきたく、特に千葉委員や神蔵委員におかれましては、実際に園での活用の協力を願いたい。

報告は以上。

**委員長：**

千葉委員、神蔵委員、園での活用について意見はあるか。

**神蔵委員：**

サイコロは、幼稚園や保育園などに全園児配布する考えはあるか。

**事務局：**

3,000 枚ほど印刷しているので、依頼があれば配布できる。全ての園に一括で配布することは難しい状況である。

**神蔵委員：**

幼稚園協会に加盟している園に周知して、希望があれば配布するという形になるのか。どこの部署からの案内になるのか、どのような形で持ち帰って話をすればいいかご指示いただきたい。

**事務局：**

まずは活用できそうかをうかがい、市の所管部署と検討し、どの程度配布できるか調整させていただきたい。

**神蔵委員：**

おそらく皆さん使うと思う。3 歳以上であれば十分に楽しめる内容であり、幼稚園だけでなく各ご家庭でも使っていただけたらと思うので、できれば全園児分の配布を検討いただきたい。

**委員長：**

周知も含めて配布の検討をお願いしたい。

#### 4 議事

**委員長：**

これより議事に入る。事務局より説明をお願いする。

議事 (1) 町田市 of 食育の取り組みについて【資料 3】【資料 4-1】【資料 4-2】

2024 年 4 月より「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」に基づき、食育推進の方向性を明確に定めた。現在は分野を横断した包括的なサービスの展開や関係機関との連携強化に取り組んでいる。課題の一つは若い世代や食に関心が薄い層へのアプローチである。具体的な取り組みとして、1 つ目が「東京家政学院大学と保健予防課との食育連携事業」、2 つ目が「JA 町田市と連携した食体験事業」、3 つ目が「町田市食育ボランティアへの活動依頼」である。

ア 東京家政学院大学と保健予防課との食育連携事業【資料 3】

【資料 3】のとおり報告した。

施策「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」【食で健康を支えるまち】(目標 1-3)

市民評価人の方から「若い世代への食育を推進するため、高校や大学との連携を強化すべき」との提言をいただいたことを受け、東京家政学院大学と連携協定を締結した。

①「まちだすいとん」の普及活動に取り組みについて

2025 年 7 月と 9 月に大学の学食で各日 30 食を提供した。今回の事業は東京家政学院大学の学食を運営している事業者様に協力いただき、提供前に運業者と米澤委員が試作をし、提供の形を整えてくださった。使用した野菜は学内で収穫したナスを使用するなど、学内の先生にも協力いただいた。学生に興味を持ってもらえるようにチラシやポスターを掲示し、大学のホームページも活用して幅広く周知した。学生からは非常に好評で完売となった。学生からは「地域の味を知りたい」「食べてみたかった」という声が聞かれ、この取り組みのために学食を訪れる学生もいたなど、食育や郷土料理への関心を引き出すことができた。

一方で事業者側からは、「通常の提供よりも手間がかかるため、現時点では継続的な提供は難しい」との意見をいただいた。

さらに、11 月 8 日・9 日に開催された町田キャンパスの学園祭にて、米澤委員が顧問を務める料理サークルの学生が「町田すいとん」で出店し、8 日に 200 食、9 日に 150 食を提供した。

提供に先立ち、保健予防課の職員が学生へ基本の作り方をレクチャーした。「まちだすいとん」の特徴である「平たく伸ばしてちぎる」という作業がなかなか難しそうであった。学生が野菜の種類や量、「すいとん」を汁に入れるタイミングなど、何度も試作を重ねて基本の「まちだすいとん」を提供しやすい形にアレンジし、完成させた。

当日は、地域の皆様の来場もあり、購入いただいた方からは「まちだすいとんを初めて知った」「ナスが入っているのはビックリ」などの感想があった。今回の評価として、試作や提供のプロセスを通じて、学生たちが地産地消や地域の味に関心を持つきっかけを作ることができた。また、学生と手を取り合うことで、保健所単独ではアプローチが難しかった地域の方々へ、町田の食の魅力を広く伝える貴重な機会となった。

## ②大学近隣の小学生を対象とした料理教室での「まちだすいとん」の啓発および食育すごろくの活用について

米澤委員の調理学研究室が主催する大学近隣の小学生を対象とした「食育料理教室」を2025年9月と10月に開催し、「まちだすいとん」の啓発及び「まちだ食育すごろく」を活用いただいた。

参加した小学生の誰もが「まちだすいとん」を知らなかったとのことで、地域の食文化に触れる機会となった。また、嫌いな野菜も自分で料理することで食べることが出来たとのことであった。

「まちだ食育すごろく」については、試作段階のものを小学生と学生に実際に使用していただいた。子供たちは楽しく行えたとのことだが、いくつかの改善すべき点がわかり、その内容を最終版に反映した。

東京家政学院大学において、2月2日に大学と地域との連携事業の事例発表会があり、これらの取り組みを米澤委員がポスター展示で発表なさった。本日は米澤委員が欠席のため、詳細の報告はないが、大学からも地域へ情報発信をしていただくことができた。

東京家政学院大学様との連携により、保健所単独では難しかった若い世代や小学生への啓発活動が実現し、食育を効果的に進めることができた。大学と市に加え、小学校やJA町田市などの関係機関とも連携を深められると、さらなる食育の推進につながると思われる。

説明は以上。

### 委員長：

質問はあるか。

### 亀田委員：

学園祭での「すいとん」の提供は、無料配布か、それとも有料販売か。

### 事務局：

1杯300円で販売された。天候が悪い日もあったが、完売したと聞いている。

### 山下委員（市内農業者）：

「まちだすいとん」の普及啓発と「すごろく」制作との関連性について教えていただきたい。

### 事務局：

直接の関連はないが、連携事業の中で小学生に「すごろく」を使ってもらい、改善点などの指摘をいただくという形で協力をいただいた。

### 山下委員（市内農業者）：

すごろくのこれからの展開について伺いたい。

### 事務局：

制作したばかりのため、多くの方に使用していただき、感想等をふまえ、これから検討していく。東京家政学院大学との連携事業の中でも使用していただきたいと考えている。

### 岩崎委員：

学食での500円という価格は学生にとって適正だったのか。また、事業者から継続が難しいとの声がある点についてはどう考えるか。

#### 事務局：

500 円は他のおかずも付いたセット価格であった。すぐに完売したため、価格よりは「食べてみたい」という興味を持って購入いただけたのだと考えている。継続性については、イベント的な提供であれば可能とのことなので、今後も大学や事業者と調整していく。

#### 竹下委員：

開催時期が9月や10月であったが、冬野菜が採れる時期など、季節を変えて展開するのも面白いのではないかと思った。

#### 委員長：

東京家政学院大学との連携は若い世代へのアプローチができる場所である、今後ともしっかりと取り組んで欲しい。

#### イ JA町田市と連携した食体験事業【資料4-1~2】

【資料4】のとおり報告した。

施策「まちだ健康づくり推進プラン24-31」【食で健康を支えるまち】(目標1-3)

保健予防課では、町田の食や生産者と触れ合う機会を増やすため、毎年、小学生の親子を対象に「食体験事業」を開催している。

2024年度の市民参加型事業評価では、評価人の方から「民間企業や大学など、多様な部門と連携して食体験を充実させるべき」との提言もいただいた。また、2024年度第1回の本委員会においても、委員の皆様から「食体験の機会の充実が重要である」との意見をいただいている。

これらの指摘や意見を踏まえ、今年度は新たにJA町田市と連携し、事業を実施した。

「町田の食をまるっと楽しむ！～まち☆ベジ収穫体験&FC町田ゼルビア応援給食クッキング～」というテーマで、収穫体験と調理実習を行った。

企画段階では、食育に関心のない方々の興味を引くため「FC町田ゼルビア」に連携を依頼したが、先方の都合により直接の協力は叶わなかった。そこで、市内の小学校で提供されており、選手も実際に食べている「FC町田ゼルビア応援給食」をメニューに採用するという工夫をした。あわせて、地産地消を推進するため「まちだすいとん」も加えている。

事業の目的は保健予防課では体験事業を通じて、感謝の心を育むこと。その地域の特性を生かした食環境について知ること。JA町田市では子育て世代を中心に新たに農業に興味・関心を持つ人を増やすこと。地場野菜(まち☆ベジ)の消費量を増やすことを目的とした。

12月13日にJA町田市忠生支店調理室及びJA町田市忠生所有の畑にて収穫体験、JA町田市職員講話、保健給食課職員による講話、食育ボランティアによる調理実習を実施した。

双方のホームページ等で参加者募集や事業のPRを行った結果、例年の倍の参加申し込みがあり、効果を感じた。

【資料4-2】食体験事業チラシが実施内容の詳細である。

まず収穫体験では、大根の葉の大きさに驚く子供たちの姿が非常に印象的であった。普段、葉がついた状態の野菜を見る機会が少ないためか、その立派さに圧倒されたようである。また、泥を落とす際の水の冷たさを肌で感じることで、「毎日こうして作業をしている農家さんはすごい」と、生産者の皆様のご苦勞に感謝する声も聞かれた。

続く調理実習では、「まちだすいとん」作りに挑戦した。子供たちは楽しみながら生地を丁寧に伸ばして鍋に入れる作業を行い、保護者にとっても、地域の味や作り方を知っていただく良い機会となった。

試食の際、提供した分量は小学校中学年を基準としていたため、低学年の子供たちには少し多めだったが、自分たちで収穫し、一所懸命に作った料理ということもあり、皆「おいしい」と感謝の気持ちを持って完食した。

参加者の皆様からは、多くの貴重なご意見をいただいた。(アンケートから抜粋)

まず、体験への評価について

「普段食べている野菜を畑で見て、触れて、収穫できたことは貴重な経験になった」という声があった。スーパーで売られている姿しか知らない世代にとって、土に触れる体験は大きな刺激となったことがうかがえる。

次に、地産地消への理解について

「町田の農業と、それを生かした給食の仕組みがよくわかった。新鮮な野菜を給食でいただけるのは、とてもありがたいと再認識した」という食生活を支える活動への感謝があった。

子どもの変化について

「普段は食事への感謝が少ないと感じていた子どもが、収穫体験を通して『自分で採った野菜をちゃんと食べよう』と口にしていた」との声があり、食育が子どもたちの意識に直接響いていることが分かる。

最後に、今後の展開への期待について

「流通や産業などに関連付けることで、職業としての農業を考えるきっかけにしてほしい」という、キャリア教育の視点を含めた建設的な提案もあった。

今回の事業に関する実施後の評価と成果について報告する。

まず、プログラム全体の満足度について

収穫体験および調理実習のいずれにおいても、全参加者から「とても良かった」または「良かった」との回答だった。この結果から、参加者の満足度は非常に高く、内容についても高く評価されたものとする。

次に、本事業の主要な目的である「食への感謝」に関する意識の変化について

保護者に対し、食べ物を大切に作る気持ちや、生産者・調理者への感謝の心を子どもに伝えていきたいかを伺ったところ、保護者全員が「伝えていきたい」と回答した。これにより、食べ物や作り手への感謝を学ぶという当初の目的を達成することができたと捉えている。

最後に、今後の展望と農業への関心について

今後参加したい内容として「収穫体験」を挙げる声が多く、リポートを希望する回答も多数寄せられた。これらの回答から、子育て世代を中心に、農業や体験活動に対して新たな興味・関心を持つ方を増やすことができたかと捉えている。

東京家政学院との連携と同様に、食体験事業についても、JA 町田市や保健給食課といった関係機関・団体の皆様と密に連携を図ることで、非常に効果的な食育活動を展開することができた。

2024 年度第 1 回委員会において「食育を推進する上では、子どもの頃からの実体験が重要である」との貴重な意見をいただいている。今回の事業は、その重要性を形にした取り組みとなった。

このような成果や提言をふまえ、今後も地域の農業と食育を深く結びつける体験型の取り組みを柱とし、関係機関との連携をさらに深めながら、継続的に推進していきたいと考える。

説明は以上。

JA 町田市の山下委員からも補足を願いたい。

**山下委員（町田市農業協同組合）：**

今回初めて保健所と連携したが、JA の若い職員が積極的に参加し、非常に喜ばしい機会となった。子どもたちが大根の大きさに驚き、歓声をあげながら引き抜く姿が印象的だった。農家が冬に冷たい水で野菜を洗う苦労も実体験してもらい、食への感謝を深めてもらえたと思う。今後も継続していきたいと考える。

**委員長：**

体験活動の重要性が示されたと思う。

質問はあるか。

**委員長：**

今後の計画について教えていただきたい。

**事務局：**

基本的には毎年、収穫体験と調理実習をセットで実施したいと考えている。時期については調整していきたい。

**委員長：**

F C 町田ゼルビア応援給食も「まちだすいとん」だったのか。

**事務局：**

今回はFC町田ゼルビア応援給食の汁物を「まちだすいとん」に変更して提供した。

### **ウ 町田市食育ボランティアへの活動依頼**

**【資料5】**

町田市で活躍している「食育ボランティア」の活用について案内。

このボランティアは、町田市保健所の養成講座を修了した食のサポーターである。市内の保育園や学校、地域団体などからの依頼に応じて、子どもから大人まで幅広い世代を対象に食育活動を行っている。

これまで、食育クイズやゲーム、紙芝居、調理実習などを中心に活動してきたが、コロナ禍以降は依頼が減少傾向にある。そこで、より多くの方に興味を持ってもらい、気軽に依頼できるよう、調理実習の内容をリニューアルした。

具体的に依頼できる調理実習として、従来の「まちだすいとん」に加え、以下の内容を新たに追加している。

- ①親子で楽しく取り組める「おやつ作り」
- ②災害時に役立つ、ポリ袋を活用した「パッククッキング」
- ③生地から本格的に作る「手打ちうどん作り」

先日、2月8日、子どもセンターからの依頼で「手打ちうどん作り」を実施した。

募集開始後、15名の定員がすぐに埋まり、さらにお断りするくらいの反響があった。

当日、子供たちが自分の手で生地をこね、伸ばし、麺にする体験は非常に盛り上がり、自分で作ったうどんの味は格別だと好評だった。うどんを寝かしている間に行った「まめっこ」ゲームも楽しんだ。食育ボランティアの活動は、子供たちが食の大切さを学ぶ「貴重な実体験」の場となる。

現在、次年度の計画を立てている時期かと思う。ぜひ皆様の所属する組織や団体でも、食育ボランティアの活用を検討いただき、周囲の方へもご紹介いただきたい。

説明は以上。

**委員長：**

質問はあるか。

**沼尻委員**

本校は今年度で閉校となる。閉校イベントで「まちだすいとん」を提供できないか相談したが、規模感（約2,000名）から難しいとの回答だった。鍋の準備や設備面、使い勝手の面でハードルがあった。今後、貸し出しや調整がスムーズになるとありがたい。こうした大規模イベントでも活用できる仕組みがあると、より普及につながるのではないかと感じた。

**事務局：**

規模や設備の面で調整が難しく残念ながら実現できなかった。今後は鍋の貸し出しなども含め、相談いただき、調整しながら、より柔軟に対応できるよう努めていきたい。

**亀田委員：**

お祭りなどの屋外イベントで「すいとん」を提供する場合、営業許可等がハードルになっているのではないかと

**事務局：**

「まちだすいとん」を調理する際は、調理室で行わなくてはいけないなどのハードルもあり実現できなかった。

**亀田委員：**

屋外イベントで「まちだすいとん」を普及させるには、その場で調理できないという営業許可の問題が懸念事項として出てくる。

**委員長：**

学園祭などは届け出を出しているのか。

**事務局：**

東京家政学院大学の学園祭では「行事開催届」を提出し、食品衛生上の確認を行って実施した。

**亀田委員：**

キッチンカーなどは設備があるのでよりスムーズにできるのではないかと思う。

**委員長：**

今後実施したいという相談があれば、仕組みも含め、できる方向に持っていけるよう調整していけると良い。

**委員長：**

事務局から、課題となっている若い世代への取り組みや関係機関が連携した食体験事業等について、説明があった。市民の多様なライフスタイルに応じた食育を推進するためには、組織や分野の垣根を超えた連携が必要であり、市として様々な角度から食育に取り組んでいるが、食に関心がない人たちには、その取り組みもなかなか届かないという現状がある。若い世代や食育に関心がない人達にも食育に関心を持ってもらい、市民ひとりひとりがライフステージに応じた望ましい食生活を実践できるようにするために、委員の職域において食育の課題と感ずることやどのような取り組みを行っていくと良いかについて伺いたい。

**山崎委員**

歯科医師の立場からは「よく噛むこと」の重要性を伝えている。噛むことは歯並びが良くなり、表情筋の発達、脳の発達、味覚の発達、肥満予防、虫歯予防につながる。一口 30 回噛むことを理想として、今後も啓発を続けていく。

**委員長：**

歯科医師会ではどのような普及啓発を行っているか。

**山崎委員**

乳幼児から中学校までの検診や講演等を学校医が行っている。日常では歯科治療時の個別に行っている。

**委員長：**

講演を依頼するにはどうしたらよいか。

**山崎委員：**

市民公開講座等を行っている。相談していただきたい。

**委員長：**

子どもの食育は各園で取り組みをされていると思うが、子どもの食で課題と感ずることやその課題に対する職域の中での取り組みや取り組んでいくと良いこと等について、意見をいただきたい。

**千葉委員：**

食育は小さい時からの経験がもとになっている。保育園では野菜作りや収穫体験、等の食育を行っている。食物の成長等を知り、収穫体験をし、それを家庭で調理ができるということが大切である。農家の高齢化で体験できる場所が減っていて、今までできていたことができないのが課題である。

**神蔵委員：**

低年齢の子どもはいかに食べるかがスタートである。自分で収穫した野菜なら食べられるという子どもが多いので、多くの子どもが体験できるように体験事業の機会を増やしていただきたい。失敗も含めて良い経験になると考えている。

**委員長：**

小中学校などでは、指導要領などに基づいて統一した食育の取組などを行っていると思うが、特に町田の地域として感じる子どもたちの食への課題などについて、意見をいただきたい。

**岩崎委員：**

早寝早起き朝ごはんを食べることを伝えたり、まち☆ベジを給食に取り入れたりしている。野菜の収穫体験、家庭科では急須でお茶を淹れる授業も行っている。しかし、茶葉を使ったことがない子どももあり、家庭での食体験がかなり減っていると感じる。孤食による心理面への影響の心配もある。ICTを活用して栄養バランスを考える授業などを行っている。児童が自らの食を考えられるようにしていき、中学校へ進学していけると良い。

**藤井委員：**

今年度全校で中学校給食が始まり、まち☆ベジの取り入れ等で野菜を意識した給食となっているが、好きなものやだけを食べる傾向がある。肥満とやせの二極化も進んでいる。FC町田ゼルビア応援給食の取り入れはスポーツを行っている生徒には良い。スポーツを行わない生徒への指導が課題である。食事の摂取内容、時間等で身体がどう変わるかを伝えることで、生徒が自ら食を考えられるようにしていきたい。

**委員長：**

日々の給食を提供している中で感じる子どもの食の課題や市としての給食を通じた取組などについて、意見をいただきたい。

**前田委員：**

郷土料理を認識していない子が多いため、学校では教科と関連づけて食材や地産地消について紹介している。4年生から食事量の制限を始める児童もいるため、食の問題は早期の教育が重要だと感じている。「まちだすごろく」を学校でも取り入れていきたい。

**委員長：**

子育て世代を中心に新たに農業に興味・関心を持つ人を増やすことや、地場野菜（まち☆ベジ）の消費量を増やすことを目的に、JA町田市と市が連携した食体験事業を実施した。市民の野菜摂取量の増加を目指すためにも、地産地消に興味を持ってもらうことは大切だと思う。学校給食とも連携しながら、地産地消や食育の取組を行っている中での課題や今後の取組等について、意見をいただきたい。

**山下委員（町田市農業協同組合）**

町田市と連携し、イベントや小中学校給食への供給も含め、地産地消を強力に進めていきたい。農地の減少を食い止めるため、担い手の育成等の取り組みも行いたい。また、今後も楽しんでもらえるイベントをより多く継続して実施していきたい。

**山下委員（農業生産者）**

野菜の生産年間計画は2月頃にはたてるので、体験農園などの依頼は早めに相談いただけると助かる。

**委員長：**

国の食育推進の方向性でも、食育に対する無関心層への啓発を含め、適切な情報提供方法など自然に健康になれる食環境づくりを、産学官等が連携し推進することが示されているが、食育に興味がない人にも自然と興味を持ってもらうためには、飲食店など関係機関が連携した取り組みを進めると効果的だと思う。商工会議所として、市内の飲食店や関係機関等と連携した食育の取り組みや取り組みを進める上で課題と感じていること等について、意見をいただきたい。

**松井委員：**

個人店では食物アレルギー表示などの表示対応が難しい面がある。正しい知識の普及を行い、事業者も正しい知識を持つことでの安全な食の提供や多様な食文化の理解など、商業の立場からも食育に貢献していきたい。

**委員長：**

町田集団給食研究会として地域に向けての取り組みや取り組みを進める上での課題などについて、意見をいただきたい。

**高尾委員：**

地域の方々を招いたイベントを通じて、食育イベントの告知を行っている。年に1回、社会福祉協会と連携しほうとう作りの活動を行っている。この活動が「まちだすいとん」でできれば良いと思う。2か月に1回子どもクラブを開催し、食育活動を行っている。相原駅等で告知を行っているが、無関心層に興味を持ってもらうかが課題である。

**委員長：**

地域での食育活動を行っている町田地域活動栄養士の活動を通して、市民の食育に対して感じている課題等について、意見をいただきたい。

**原委員：**

被災食の備蓄の普及や20歳の若者への調査を行っている。20歳の若者への調査では、朝食、野菜摂取について聞いたところ、朝食で野菜を食べていない人が摂取しているものは、今までは炭水化物が多かったが、今年はたんぱく源が多かった。情報の変化を感じる。また、町田市と専門家がより密に連携して、実施後の評価を大きな視点で検討し、プランを広めていく体制ができればよいと思う。

**委員長：**

観光コンベンション協会では市民への情報発信という点で、他機関などと連携した取り組みを行っていると思う。取組を進める上での課題や効果的な取組等について、意見をいただきたい。

**亀田委員：**

イベントなどを通じて、多くの市民に発信していくことが観光コンベンション協会の強みである。「まちだすいとん」の提供も調理のハードルをクリアして、イベントなどでより多くの方に町田の食を知ってもらえる場を作っていけると良い。

**委員長：**

生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進していくためには家庭での食育が大変重要となる。家庭での食育を進めていく上で、課題と感じていること等について、意見をいただきたい。

**沼尻委員：**

食育は家庭教育が基本だが、学校任せになっている保護者が多い。子どもを持つ保護者の同志として食育を推進していきたい。食育の目的がわからない、食育を行うことでの何年後かの遠い未来が想像できていない人が多いがこれが大切であると思う。

**竹下委員：**

学校の給食任せになっている保護者が多い。食育ボランティアの存在も知らない学校もある。PTAで食育の発信ができると良い。家庭で子どもと一緒に食事を作ることが減っているため、この活動ができれば良いと思う。

**委員長：**

食育だけではできない部分もある。連携しながら、今度の食育推進事業を実施にむけて進めていただきたい。

## 5 その他（事務連絡事項等）

**事務局：**

連絡事項

1. 本委員会をもって、委員の皆様の任期中の会議は最後となる。2年間の就任期間におかれては町田市の食育推進に尽力いただき、感謝申しあげる。  
次年度の委員会開催のため、次期委員の推薦をお願いしたい。推薦依頼を、3月中に所属団体の代表者様宛に送る。次期委員の選出は5月中旬までにいただきたい。委員の変更がある場合には次期

委員に引継ぎを行っていただきたい。なお、2026年度第1回の町田市食育推進委員会は2026年8月上旬頃を予定している。

2. 本日の謝礼は、公務の方、及び辞退されている方を除き、後日、指定の口座に振り込みを予定している。
3. 食育推進状況を把握するため、委員の皆様が実施した食育の取組があったら、報告いただきたい。本件については、後日メール等で依頼する。

連絡事項は以上。

— 閉会 —